

令和 2 年度予算主要事業の概要
(事業別説明資料)

教育委員会事務局



目 次

学校体育館の非構造部材耐震化整備	1
地産品を使ったふるさと食育の推進	2
様々な就学の夢を支える育英資金	3
飛騨市学園構想の推進	4
スタディーサポーター（学習支援員）の配置	5
英語教育指導員・英語指導講師の配置	6
ICT を効果的に活用した授業づくり	7
プログラミング教育の推進	8
保小中連携教育の推進	9
地域コミュニティ施設整備の支援	10
「飛騨市市民大学」のプレ開校	11
ねんりんピック岐阜 2020 の開催	12
スポーツ施設の計画的な整備及び改修	13
クアオルト健康ウォーキングの普及推進	14
ノルディックウォーキングの普及推進	15
江馬氏城館跡の保存活用推進	16
飛騨市美術館・民芸会館の企画展等の開催	17
飛騨の糸引き工女の史実調査・研究	18
荒垣秀雄顕彰による文学活動の促進	19
行きたくなる図書館づくり	20
地域文化継承活動の支援	21
飛騨市文化交流センター15周年記念祝賀イベントの開催	22
飛騨みやがわ考古民俗館の認知度向上	23

継続 学校体育館の非構造部材耐震化整備

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】								
79,580	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">国庫補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">26,792</td> </tr> <tr> <td>学教債</td> <td style="text-align: right;">47,400</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">5,388</td> </tr> </table>	国庫補助金	26,792	学教債	47,400	一般財源	5,388	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">工事請負費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">79,580</td> </tr> </table>	工事請負費	79,580
国庫補助金	26,792									
学教債	47,400									
一般財源	5,388									
工事請負費	79,580									
(前年度予算 81,336)										

2 事業背景・目的

東日本大震災では屋内施設の吊り天井や照明器具などが崩落し、大きな被害をもたらしました。多くの学校施設は避難所にも指定されており、万が一に備えた早急な耐震整備が求められています。

このことから、市では、日々の安全性の確保と快適な学習環境の向上を図るとともに、災害時における避難所として安心して活用できるよう、平成30年度から令和元年度にかけて、耐震化が必要とされている6校のうち4校の体育館耐震化工事を実施しました。

令和2年度には、残り2校となる古川西小学校、河合小学校の体育館耐震化工事を行います。

3 事業概要

○【継続】学校体育館非構造部材耐震化工事 (79,580千円)

耐震化が必要な6校を順次整備しています。

天井板の撤去や照明灯の交換、窓ガラスに保護シートを貼る等、耐震化を図ります。

平成30年度 古川中学校・神岡中学校 体育館耐震化工事(平成29年度繰越事業)

令和元年度 古川小学校・神岡小学校 体育館耐震化工事(平成30年度繰越事業)

令和2年度 古川西小学校・河合小学校 体育館耐震化工事

(款)	10 教育費	(項)	2 小学校費	(目)	1 学校管理費
所 属	教育委員会事務局教育総務課		TEL0577-73-7493	予算書	P.123

[拡充] 地産品を使ったふるさと食育の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
10,000	ふるさと創生基金 10,000	需用費 10,000

(前年度予算 1,000)

2 事業背景・目的

学校給食は、適切な栄養の摂取による健康の保持増進と食の大切さを知る重要な食育の場です。市では、市内の子どもたちに給食を通じて、安心安全はもちろんのこと、食の楽しさ、地域への誇りを感じてもらえるよう「ふるさと学校給食」をはじめとして、学校給食の充実を図っています。しかしながら、地元産品を使った学校給食の提供は、学校給食費の中では賄うことが難しい現状にあり、限られた回数だけの提供となっています。

このことから、通常の学校給食制度は維持をしながら、ふるさと納税による寄附を活用し、「ありがとう給食の日」として、地元産品や季節の地産農産物等を提供し、市内の子供たちに食の楽しさ、地元産品への誇りを感じてもらうとともに、学校に来る楽しみの一助になるよう学校給食の向上を図ります。

3 事業概要

①【新規】「ありがとう給食の日」の創設 (9,000千円)

学校給食のメニューに、普段なかなか提供できない地元特産品や季節の地産農産物をデザート等として提供する「ありがとう給食の日」を年10回以上実施します。

子供たちの感謝の気持ちを育むとともに、美味しい地産品を提供することで地元の誇りを養いながら、楽しい学校生活につなげます。

②【継続】ふるさと学校給食の実施 (1,000千円)

市内小中学校児童生徒を対象に地元生産者の苦労やこだわりを学び、飛騨市独自の食材を誇りに思える機会として、「ふるさと学校給食」を実施します。

実施日：未定 令和2年度テーマ：飛騨地鶏

(款) 10 教育費	(項) 5 保健体育費	(目) 4 学校給食費	
所 属	教育委員会事務局教育総務課 TEL0577-73-7493	予算書	P.136

拡充 様々な就学の夢を支える育英資金

1 事業費（単位：千円）

【財源内訳】

【主な使途】

※飛騨市育英基金内での運用

2 事業背景・目的

育英資金貸付制度は、教育基本法第4条第3項の規定に基づき、能力があるにも関わらず経済的理由によって就学が困難な者に対し、奨学の支援を行うものです。市では育英基金を設置し、育英資金として無利子貸付を行ってきましたが、平成29年には低所得者世帯に対して、償還免除制度を新設し、拡充を図ってきました。

今回、多様化する進学制度に対応するため学校種別の拡充を行うとともに、成績基準にとらわれない特化型の貸付枠を設けることで、誰もが将来にわたり意欲をもって勉学に励み、就業に向かえる環境を整えます。

3 事業概要

① 【拡充】学校種別の拡充

[従前の学校種別]

高等学校・高等専門学校・大学（短期含む）・大学院・専修学校

[今回拡充する内容]

上記以外の学校で職業能力開発大学校など、選考委員会で適当と認めた学校

【除外要件】成績評価を行わない学校、進学のための学校（進学塾・予備校等）

特定の企業が雇用を目的にした学校、就労と併用した学校

② 【拡充】チャレンジ枠の創設

[今回拡充する内容]

従来の成績による選考基準とは別に、進学によりスポーツや芸術等得意な分野を伸ばしたい方を対象とした枠を新たに創設します。（所得要件は従来と同じ）

【選考方法】進学理由及び資格取得や部活動等の大会成績を示す書類の提出及び面接

歳計外	飛騨市育英基金会計			
所 属	教育委員会事務局教育総務課	TEL0577-73-7493	予算書	—

拡充 飛騨市学園構想の推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】	【主な使途】												
5,702	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">県補助金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,967</td> </tr> <tr> <td>ふるさと創生基金</td> <td style="text-align: right;">2,352</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">383</td> </tr> </table>	県補助金	2,967	ふるさと創生基金	2,352	一般財源	383	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">委託料</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">3,400</td> </tr> <tr> <td>報償費</td> <td style="text-align: right;">1,288</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">1,014</td> </tr> </table>	委託料	3,400	報償費	1,288	その他	1,014
県補助金	2,967													
ふるさと創生基金	2,352													
一般財源	383													
委託料	3,400													
報償費	1,288													
その他	1,014													
（前年度予算 5,069 ）														

2 事業背景・目的

飛騨市学園構想は、市内の保育園から高等学校・特別支援学校までを一つの学園に見立てた一貫性のある課題解決型カリキュラムを実践するとともに、学校と地域住民の協働によるコミュニティ・スクール（学校運営協議会を導入した学校）に関わろうとする大人の幅を広げ、育てたい子ども像（未来の創り手像）を共有しながら、地域で育て、地域も育つ教育活動を推進する取り組みです。

令和元年度は、市や学校関係者、地域の方々とともに、月1回の会議を開催し、ビジョンやカリキュラムの骨子を検討してきました。また、学校運営協議会の導入準備を行ったとともに、リーフレットを作成し、市民や保護者等に広く周知を図りました。

令和2年度は、課題解決型カリキュラムの本格実施をし、学校運営協議会の推進体制を強化・充実させ、勉強会やフォーラムの開催を通じて市学園構想に参画する地域住民の獲得と活動促進を図ります。

3 事業概要

① 【継続】 飛騨市学園構想の実践（3,955千円）

- ・ 各校区のコミュニティ・スクールにて地域学校協働活動の具体的な取組についての交流・検討を行います。
- ・ 保小中高特をつないで力をのばすカリキュラムを研究し、実践します。
- ・ 地域住民や教職員等を対象にした研修会を年3回実施します。

② 【継続】 飛騨市教育フォーラム「まなびみらい会議2020」開催（600千円）

飛騨市学園構想を飛騨圏域・県内外に広く周知をするとともに、地域住民の未来の創り手育成への主体的参画意識を高めます。

③ 【新規】 地域学校協働本部の設置（1,147千円）

各小中学校区に地域と学校を円滑につなぐ地域学校協働本部を設置し、その活動推進員を配置します。

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費 4 社会教育費	(目)	2 事務局費 2 生涯学習振興費
所 属	教育委員会事務局学校教育課 教育委員会事務局生涯学習課		TEL0577-73-7494 TEL0577-73-7495	予算書	P.119・P.127

新規 スタディーサポーター（学習支援員）の配置

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
5,781	ふるさと創生基金	5,781	会計職人件費	5,781

（前年度予算 0 ）

2 事業背景・目的

市内の小中学校には、様々な要因により不登校・不登校傾向にある児童生徒がいますが、こうした児童生徒の中には、授業に参加することは難しいが自分なりのペースで学習をしたい、自分の進路を切り拓くために学習をしたいという思いを持つ子どもがいます。

このため、スタディーサポーター（学習支援員）を配置し、こうした児童生徒への個別の学習支援を行うことで、中学校卒業後の進路を切り拓くことや引きこもり防止対策につなげます。また、状況に応じて通常学級で個別の学習支援を必要とする児童生徒についても学習支援員が関わり支援を行います。

3 事業概要

○ スタディーサポーター（教員免許所有者）3名配置

古川中校区に2名、神岡中校区に1名を配置し、不登校・不登校傾向にある児童生徒への個別の学習支援を行います。

※スタディーサポーター（学習指導員）の業務

- ① 不登校児童生徒への家庭訪問や学校外での学習支援
- ② 市教育相談室「グリーンルーム」に通う不登校児童生徒への学習支援
- ③ 学校の相談室に通う不登校傾向にある児童生徒への学習支援
- ④ 通常学級に通う児童生徒の内、支援を要する児童生徒への学習支援

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会事務局学校教育課	TEL	0577-73-7494	予算書	P.119

[拡充] 英語教育指導員・英語指導講師の配置

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】						
8,013	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">ふるさと創生基金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">2,761</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">5,252</td> </tr> </table>	ふるさと創生基金	2,761	一般財源	5,252	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">会計職人件費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">8,013</td> </tr> </table>	会計職人件費	8,013
ふるさと創生基金	2,761							
一般財源	5,252							
会計職人件費	8,013							
(前年度予算 5,698)								

2 事業背景・目的

令和2年度から全面実施となる小学校新学習指導要領では、小学校の英語授業を3・4年生が35時間、5・6年生が70時間の実施を示し、小学校3・4年生から英語の音声に慣れ親しみながらコミュニケーション能力の素地を養うこと、さらに5・6年生では身近なことについて英語の基本的な表現によって「聞く」「話す」に加え、積極的に「読む」「書く」を含めたコミュニケーション能力の基礎を養うことが求められています。

市では、平成30年度から英語指導講師を2名配置し、教員の外部講師による出前研修を実施するなど取り組んできました。

令和2年度は、教員や英語指導講師の指導力の向上、ALT（外国人英語指導助手）との連携強化による英語授業の充実を図るため、これらの人材を指導する英語教育指導員を配置します。

3 事業概要

① 【新規】英語教育指導員（英語科教員免許所有者）2名配置（2,761千円）

新たに英語教育指導員を配置し、英語教員の指導力向上を図ります。

※英語教育指導員の主な業務

- ① 学級担任と英語指導講師の授業を参観し、改善点等の指導助言を行います。
- ② 英語教育指導員が学級担任役となり、英語指導講師とともにモデルとなる授業を行うなど、教員を対象にした授業研修を行います。
- ③ 学級担任は、必ずしも英語専門ではないため、学級担任とALTとのつなぎ役となり、指導を行うことで英語授業の充実を図ります。

② 【継続】英語指導講師（英語科教員免許所有者）2名配置（3,018千円）

小学校3年生、4年生の英語授業を補助する講師を配置し、学級担任と連携して子ども達に英語を好きになってもらえるよう丁寧な指導を行います。

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会事務局学校教育課	TEL	0577-73-7494	予算書	P.119

継続 ICT を効果的に活用した授業づくり

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
13,940	ふるさと創生基金 13,940	備品購入費 5,977
		役務費 4,524
		使用料 3,439
(前年度予算 57,336)		

2 事業背景・目的

令和2年度から全面実施される新学習指導要領では、情報活用能力を言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけ、その育成を図るための環境整備及び教育の情報化を通じた教育の質的改善が求められており、ICT環境の整備が急務となっています。

市では、令和元年度までに、各学校1学級分のタブレット型PC、小学校4年生以上と中学校の普通教室に固定式電子黒板、無線LAN、授業用PC、デジタル教科書を整備し、ICT機器を活用した授業づくりの環境整備に取り組んできました。

令和2年度は、更なるICT環境整備を行うとともに、ICTを活用した授業づくりの実践を行うことで、直面する課題を主体的に解決するために必要な「課題解決能力」や「情報活用能力」等を育みます。

3 事業概要

- 古川小学校6年生が2クラスから3クラスになることを踏まえ、電子黒板を追加整備します。
- 各中学校に3人に1台のタブレットPCの追加配備を行います。
- 令和元年度に導入した小学校4年生以上、中学校全学年の5教科(国・社・算・理・英)のデジタル教材(教科書)を継続使用します。(1年ごとライセンス更新)

これらのICT環境整備により、以下のような授業改善が期待できます。

- ①電子黒板やデジタル教科書の導入で、映像やシミュレーション等の多様な教材の活用が可能となり、学習内容をより理解することにつながります。
- ②無線LANやタブレット型PCとの併用により、児童生徒が他者との活発な意見交流を通して多様な意見にふれ、自らの考えを広げ深めることにつながります。

(款) 10 教育費	(項) 2 小学校費 3 中学校費	(目) 2 教育振興費	
所 属	教育委員会事務局学校教育課 Tel0577-73-7494	予算書	P.123・P.125

新規 プログラミング教育の推進

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
5,620	ふるさと創生基金	5,620	備品購入費	5,300
			役務費	164
			その他	156
（現計予算 0 ）				

2 事業背景・目的

新学習指導要領では、変化が激しい予測困難な時代を生き抜く子どもを育成するために、小学校からのプログラミング教育の充実を目指しており、学習環境の整備とともに、教職員の指導力向上が急務となっています。

市では、今年度、県教育委員会実施の指導者養成講座に教員を派遣し、プログラミング教育の本格実施に向けたカリキュラム検討や教材選定を進めてきました。

令和2年度は、小中学校に教材を整備し、教員の指導力向上に取り組むことで、プログラミング教育の円滑な実施を通じて、子どもたちにプログラミング的思考（論理的思考力）を育み、飛騨市ならではの人づくりを進めます。

※プログラミング教育とは、令和2年度から小学校で完全実施となる新学習指導要領に掲げられた項目の一つで、児童がプログラミングを体験しながら、コンピュータに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身に付けるための学習活動のこと。

3 事業概要

令和2年度からはじまるプログラミング教育の円滑な実施に向けて、各小中学校にプログラミング教育に活用する教材を各1学級分整備します。

また、既にプログラミング教育を実践している学校を視察するなど、教員の指導力向上を図ります。

(款) 10 教育費	(項) 2 小学校費 3 中学校費	(目) 2 教育振興費	
所 属	教育委員会事務局学校教育課 TEL0577-73-7494	予算書	P.123・P.125

継続 保小中連携教育の推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な用途】	
224	一般財源	224	報償費	104
			需用費	77
			旅費	43
(前年度予算 380)				

2 事業背景・目的

初等教育期の課題として、家庭状況や社会の急激な変化により、小学校1年入学当初の環境変化に適応できず登校渋りをする児童が増えています。また、小学校と比較して中学校では相談室登校や不登校生徒の出現率が高くなっています。

このような課題に対応し、保育園・小学校・中学校の12年間を見通した一貫性のある指導により、保小中の生活面・学習面の指導・取り組みについて、早期からの教育支援を行い、個に徹した指導の充実や不登校児童生徒の未然防止を図ります。

令和元年度は、飛騨市の実情に応じた就学前の「アプローチカリキュラム」、就学後の「スタートカリキュラム」を完成し、カリキュラムに基づいた取り組みを推進しました。また、小学校新1年生の保護者向けにリーフレットを配付し、家庭・保育園・小学校が連携して入学準備を進めるよう取り組みました。

令和2年度は、さらに、小学校から中学校への円滑な接続のために、小中学校の交流を増やすとともに、小中学校の職員による情報交換会を定期的を実施します。

3 事業概要

① 小学校新1年生保護者向けリーフレットの作成 (77千円)

小学校生活に向けて家庭で取り組む内容をリーフレットにまとめ保護者に配付します。

② 保小中連携教育推進委員会の実施 (110千円)

保小中連携教育の推進を目的とした保・小・中職員、有識者、保小中連携アドバイザー(飛騨市教育研究所次長が兼務)による委員会を年3回実施し、飛騨市版アプローチ・スタートカリキュラムの実践・検証・修正を行います。

③ 保小合同研修会の実施 (37千円)

保育園・小学校職員合同研修会の企画・実施をします。

(款)	10 教育費	(項)	1 教育総務費	(目)	2 事務局費
所 属	教育委員会事務局学校教育課		TEL0577-73-7494	予算書	P.119

拡充 地域コミュニティ施設整備の支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
3,000	一般財源	3,000	補助金	3,000

(前年度予算 49,795)

2 事業背景・目的

市内各地の地域公民館は、コミュニティ活動の拠点としてのみならず、災害時の避難所として指定されるなど重要な施設となっています。市では、地域で管理する公民館等に対し、これまで新築や増築の補助制度を運用し、支援を行ってまいりましたが、高齢化が進む中でトイレの洋式化やバリアフリー化などの施設改修、座椅子などの備品購入など、避難所利用も想定した使いやすい環境整備への支援を求める声があります。

このことから、地域みんなで支えあうコミュニティ施設として、高齢者をはじめ、誰もが使いやすく利用できるよう公民館施設等の改修や備品購入に対する補助メニューを拡充します。

3 事業概要

① 【拡充】 集会施設整備補助金 (2,500千円)

これまでの新築・増築に係る補助に加え、新たに下記の補助対象を追加します。

- ・対象施設 自治会など地域で設ける集会施設
- ・対象工事 トイレの洋式化、バリアフリー（段差の解消・スロープ設置）、
手すり設置、冷房設備設置、克雪(耐雪・落雪・融雪)、LED改修 等
- ・補助金額 改修経費の1/2（上限200万円）
- ・補助回数 原則同一施設につき1回

② 【新規】 集会施設備品購入費補助金 (500千円)

高齢者等の利用しやすい環境整備のため、新たに備品購入の補助制度を創設します。

- ・対象備品 座椅子・長脚机・椅子
- ・補助金額 購入費用の1/2（上限15万円）

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 5 公民館費	
所 属	教育委員会事務局生涯学習課 TEL0577-73-7495	予算書	P.130

新規 「飛騨市市民大学」のプレ開校

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,499	雑入	126	報償費	1,000
	一般財源	2,373	需用費	625
			その他	904
(前年度予算 0)				

2 事業背景・目的

市では公民館を生涯学習の拠点施設と位置づけ、市の教育方針「ふるさと意識をもち学び続ける人づくり」のもと、市が企画して実施する公民館講座と、市民が自ら企画し講師となる自主講座を実施しています。

令和2年度は、「生涯学び自分を磨くことができる環境づくり」をテーマに、これまでの公民館講座と自主講座に加えて、著名人や大学教授等の一流講師陣による深い学びの機会を創出し、同講座を「飛騨市市民大学」と位置付け、更なる充実を図ります。また同大学では、学部をイメージした体系的なプログラムを構築し、市民が選びやすく参加しやすい環境を整えるとともに、市民の興味や知識欲に応えられる様々な講座を実施していきます。

3 事業概要

① 飛騨市市民大学のプレ開校イベントの開催 (2,331千円)

令和3年度の「飛騨市市民大学」の本開校に向けて、令和2年秋頃にプレ開校を行います。プレ開校では、著名な講師によるプレオープン記念講座の実施や、本実施に向けた校章デザインや修了式企画などのワークショップを実施します。

市民大学では、学生証の配布や修了証書の授与等、一般的な大学を模した要素を取り入れるなどし、地域一体となって市民が主体的に生涯学べる機会創出を図ります。

② 飛騨市市民大学運営委員会の設立 (168千円)

市民大学の開校・運営に向けた準備を進めるため公民館運営審議会委員等で構成する運営委員会を設立し、企画提案や助言、実績評価・検証など協議を行います。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	2 生涯学習振興費
所 属	教育委員会事務局生涯学習課	TEL	0577-73-7495	予算書	P.127

拡充 ねんりんピック岐阜 2020 の開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】				
14,786	<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">ふるさと創生基金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">14,000</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">786</td> </tr> </table>	ふるさと創生基金	14,000	一般財源	786	負担金 14,786
ふるさと創生基金	14,000					
一般財源	786					

(前年度予算 1,000)

2 事業背景・目的

令和2年度に岐阜県において第33回全国健康福祉祭ぎふ大会「ねんりんピック岐阜2020」が開催されます。県では、県民の温かさと熱意、そして「オール岐阜」による心のこもったおもてなしで全国の皆さんをお迎えすることを基本方針に「清流に輝けひろがれ 長寿の輪」をスローガンに掲げ、東京オリンピック・パラリンピックを契機とした「スポーツ・文化の振興」につなげる大会、「健康長寿」の素晴らしさを確かめ合う大会、「地域共生社会」実現の契機となる大会の3項目を大会目標としています。

飛騨市では、サッカー競技が行われるため、全国各地から訪れる方々に対し、市民一体となったおもてなしにより、飛騨市の魅力を伝えます。

3 事業概要

飛騨市を会場とするサッカー競技は、全国各地から約64チームの総勢1,300人が参加されます。競技会場では、飛騨市産の食材を使った鍋をふるまうなど市の特色を生かしたおもてなしを行い、あわせて、市内事業者と連携し土産・飲食店や観光スポットなどをPRすることで、今後のリピーター獲得につなげます。

【競技日】令和2年10月31日(土)～11月2日(月)

【競技会場】杉崎公園グラウンド(古川町杉崎)、ふれあい広場(古川町黒内)、数河高原グラウンド(古川町数河)、流葉交流広場(神岡町西)

(款) 10 教育費	(項) 5 保健体育費	(目) 1 保健体育総務費
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課 TEL0577-62-8030	予算書 P.134

継続 スポーツ施設の計画的な整備及び改修

(飛騨市屋内運動場整備及び古川トレーニングセンター整備他)

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
37,248	合併基金	37,100	工事請負費	31,000
	一般財源	148	委託料	6,173
			その他	75
(前年度予算 17,502)				

2 事業背景・目的

市内では各地域において盛んにスポーツが行われており、市民の健康づくりや生きがいづくりのためにも更なるスポーツの振興を図る必要がある一方で、施設のニーズ多様化や老朽化などが課題となっています。令和元年度は、スポーツ施設整備計画に基づき、新たな全天候型屋内体育施設の内容等について、屋内運動場整備検討委員会を設立し、先進地視察を行いながら建設場所等の検討を行いました。

令和2年度は、スポーツ施設整備計画に基づいた施設の改修等を計画的に行い、市民の皆様が安全で気軽にスポーツができる環境を整備します。

3 事業概要

① 飛騨市屋内運動場整備に向けた調査測量設計 (1,173千円)

屋内運動場新築に向けて、森林公園内既存施設(管理棟・宿泊棟・テニスコート場)の解体に伴う設計を行います。

② 飛騨市屋内運動場整備検討委員会 (75千円)

全天候でスポーツが楽しめる新たな運動場の整備に向け、検討委員会の中で更に詳細な施設の内容等について検討を行い、次年度以降の整備につなげます。

③ 古川トレーニングセンターの整備 (36,000千円)

屋根の雨漏り対策やトイレ洋式化等改修工事(第1期工事)を行うとともに、第2期工事となるアリーナの床や事務所の壁面改修などの詳細設計を行います。

(款)	10 教育費	(項)	5 保健体育費	(目)	3 体育施設費
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課	TEL	0577-62-8030	予算書	P.134

拡充 クアオルト健康ウォーキングの普及推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
3,467	一般財源	3,467
		委託料 3,200
		役務費 200
		その他 67
(前年度予算 5,350)		

2 事業背景・目的

近年、高齢化と健康志向の高まりによりウォーキング人口は全国的に増加し続けています。飛騨市においても高齢化は今後も進行することが明らかであるため、健康に年齢を重ねることが重要視されています。

このため、「クアオルト健康ウォーキングアワード2016」受賞を契機に、主にコース開設やガイド養成などの体制整備に注力したこれまでの取り組みを踏まえ、令和2年度は新たに整備した「クアの道」等の活用に加え、市内の豊かな森林の活用による市民の健康づくりと、広葉樹のまちづくり事業との連携を図りながら、森と健康をテーマにした「フォレスト・ヘルス・ツーリズム」の推進による観光誘客の拡大にも取り組みます。

※クアオルト健康ウォーキングとは、心拍数や体表面温度を適切に管理しながら無理なく歩いて健康作りを行う「気候性地形療法」のこと。

3 事業概要

① 【拡充】推進体制の整備及び拡充 (1,200千円)

- ・令和元年度に神岡町流葉地内に新たに整備したコース「アルプス展望神秘の森コース」における実践指導員を養成し、指導員のスキルアップを図ります。

② 【拡充】市民が気軽にウォーキングに参加できる機会と場所の提供 (2,267千円)

- ・令和元年度に設立した「飛騨市健康ウォーキングガイド協会」の認定コース（市内2箇所程度）を開発し、ウォーキングイベントを実施します。
- ・市内ウォーキングコースと健康に良い食事とのコラボや、市外企業向け福利厚生事業の斡旋（社員の福利厚生の一環とした健康ウォーキングプランの提案）等を行い、市内外問わず広く参加者層の拡大を図ります。
- ・ホームページを新たに開設し周知を図ります。

(款)	10 教育費	(項)	5 保健体育費	(目)	2 保健体育振興費
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課	TEL	0577-62-8030	予算書	P.134

[拡充] ノルディックウォーキングの普及推進

1 事業費 (単位: 千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
494	雑入	21	委託料	300
	一般財源	473	補助金	100
			その他	94
(前年度予算 477)				

2 事業背景・目的

市民の健康意識の高まりを踏まえ、年齢を問わず気軽に取り組むことのできるノルディックウォーキングを普及・推進させるため、平成30年度から、新たに飛騨市ノルディックウォーキング研究会を発足し、市内4町に推奨コースの設定、専用ボールの配布や年5回の教室を実施し、令和元年度には、第1回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタを開催するなど、競技人口の拡大を図りました。現在では、公認指導員による自主的な教室が第2・第4日曜日に定期的に行われるなど、競技人口は確実に増えています。

令和2年度は、第2回飛騨市ノルディックウォーキングフェスタ2020の開催や、妊婦を対象とした健康ウォーキングの実施等、更なる市民への普及を図るとともに、指導員の発掘・養成を行い、競技人口の拡大を図ります。また、介護予防やリハビリ等に興味のあるシニア世代はもちろん、特定保健指導該当者でスポーツに苦手意識をもっている方にも普及活動を行い、健康増進事業の底上げを図ります。

※ノルディックウォークとは、フィンランドにおいてスタートした2本のボールを使ったウォーキングのこと。

3 事業概要

① 【新規】妊婦を対象とした健康ウォーキングの実施 (94千円)

ノルディック・ウォーク連盟公認指導員とスポーツ推進委員が講師となり各町で教室を開催します。また、新たに妊婦を対象とした健康ウォーキングを実施します。

② 【継続】ひだノルディックウォークフェスタ2020の開催 (300千円)

市民と全国から募る愛好家との交流を深める情報交換の場として「第2回ひだノルディックウォークフェスタ2020」を開催します。

③ 【継続】指導員の養成 (100千円)

一般社団法人全日本ノルディック・ウォーク連盟主催の指導員講習会受講費用4万5千円のうち2万円を助成します。(5名程度) ※公認指導員数13人 (令和元年度)

(款)	10 教育費	(項)	5 保健体育費	(目)	2 保健体育振興費
所 属	教育委員会事務局スポーツ振興課	TEL	0577-62-8030	予算書	P.134

拡充 江馬氏城館跡の保存活用推進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
3,765	国庫補助金	590	委託料	2,976
	一般財源	3,175	需用費	313
			その他	476
(前年度予算 2,000)				

2 事業背景・目的

江馬氏城館跡は、江馬氏が支配していた6つの山城群（高原諏訪城跡、土城跡、寺林城跡、政元城跡、洞城跡、石神城跡）と下館跡が一体となって機能し、領地を支配していたことを示す貴重な遺跡であるとして昭和55年に国史跡に指定され、更に平成29年度に庭園と会所部分が国の名勝に指定されました。

このことから、市では史跡等の保存活用計画を策定し後世に継承するとともに、この誇り得る史跡と平成31年3月にオープンした「ひだ宇宙科学館・カミオカラボ」との連携を図り、飛騨の歴史や最先端科学が学べる特徴あるまちづくりを推進します。

3 事業概要

① 【新規】江馬氏城館跡施設の利活用検証プロジェクト (300千円)

江馬氏城館跡の更なる活用のため、市民へ利活用アイデアの募集を行うほか、飛騨市観光協会神岡支部などと連携し、新たな活用方法を検討しつつ、イベントを実験的に行い、活用に必要な改善箇所等の検証を行います。

② 【継続】かわらけレプリカ等の作製 (3,465千円)

江馬館発掘調査で出土した特徴的な出土遺物である「墨書かわらけ」を見たいとの入館者からの要望を踏まえ、精巧な「レプリカ」を作製し、会所の内部で展示公開し、歴史的価値を深めます。また、施設場内の説明看板が経年劣化により、読みにくくなっていることから、これらを更新し場内整備を行います。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	4 文化財保護費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.128

継続 飛驒市美術館・民芸会館の企画展等の開催

1 事業費（単位：千円）	【財源内訳】		【主な使途】	
4,352	雑入	50	需用費	1,854
	一般財源	4,302	報償費	1,106
			その他	1,392
（前年度予算 4,046 ）				

2 事業背景・目的

飛驒市にゆかりのある作品は市内外に数多くありますが、市民や一般に知られていない優れた作品が存在しています。

こうした文化芸術作品は、人々に安らぎと感動や心の潤いを与え、生きがいをもたらすとともに、まちに元気を与えることから、こうした潜在的な作品に光を当て、市民はもとより観光客等にも鑑賞してもらおう機会を設けることで、ふるさと飛驒への想いや誇りの醸成を図ります。

3 事業概要

- ・飛驒地域で行われていた伝統漁法や地域に根付いた魚食文化を紹介する「宮川・高原川の漁撈文化・伝統漁法展（仮称）」を開催します。
- ・長年地元飛驒地域で活動し、地元作家を指導してきた小枝利汎氏の絵画を展示する「ひだ古川の美術の父「小枝利汎展」（仮称）」を開催します。
- ・子どもを対象とした作品展示とし、飛驒地域に縁のある絵本の原画などを展示する「ワダアスカ絵本展（仮称）」を開催します。
- ・「市美術展」、「飛越交流美術展」を開催し、市内作家の発表の場を設けることで、文化芸術活動を支援します。
- ・その他アート体験型イベントや日本画教室、彫塑（立体造形）教室、子ども美術教室の開催など、初心者から経験者まで幅広く・各レベルに応じ、楽しめる美術講座を開催し、未来の市民芸術作家の育成を推進します。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	7 文化施設費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.131

継続 飛驒の糸引き工女の史実調査・研究

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】										
2,011	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">ふるさと創生基金</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,335</td> </tr> <tr> <td>一般財源</td> <td style="text-align: right;">676</td> </tr> </table>	ふるさと創生基金	1,335	一般財源	676	<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">会計職人件費</td> <td style="width: 50%; text-align: right;">1,821</td> </tr> <tr> <td>需用費</td> <td style="text-align: right;">150</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td style="text-align: right;">40</td> </tr> </table>	会計職人件費	1,821	需用費	150	その他	40
ふるさと創生基金	1,335											
一般財源	676											
会計職人件費	1,821											
需用費	150											
その他	40											
(前年度予算 1,470)												

2 事業背景・目的

平成30年度より専門調査員1名を新たに雇用し、明治期の日本の産業近代化の礎として信州の製糸産業に貢献した「飛驒の糸引き工女」を調査・研究を開始し、これまでの調査成果を工女にゆかりのある「三寺まいり」の時期に合わせ、市美術館企画展として開催しました。

映画「あゝ野麦峠」の影響で女工哀史のイメージが強いですが、当時貴重な現金収入を得て飛驒に残る家族の生活を支えたことや、岡谷での暮らしは福利厚生が充実していたなど史実に基づく歴史考証した結果を冊子紀要にまとめ後世に伝えます。

また、令和元年度に実施した「飛驒の糸引き工女」の企画展の常設展示に向けて、検討を行います。

3 事業概要

工女が活躍した明治から大正、昭和初期の飛驒の歴史変遷を「飛驒の近代史」として資料と共にまとめ冊子紀要を作成します。



(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	3 文化振興費
所 属	教育委員会事務局文化振興課 Tel0577-73-7496			予算書	P.128

[拡充] 荒垣秀雄顕彰による文学活動の促進

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
180	一般財源	180	報償費	170
			旅費	10

(前年度予算 180)

2 事業背景・目的

飛騨市出身の故荒垣秀雄氏は、昭和21年から約17年間の長きに亘り、朝日新聞のコラム「天声人語」の担当執筆や多数の著書を出版されるなど、社会に大きな功績を残されました。また、日本の経済成長期にいち早く、環境保全の提唱や自然保護活動に尽力され、社会に大きな影響をもたらしたことから、旧神岡町時代に名誉町民として顕彰し、名誉市民として引き継がれ、同氏は市民の誇りでもあります。

市では、平成30年度に市民団体との協働にて生家跡地に顕彰記念石碑を建立したことを契機に、同氏の功績を偲ぶ催しとして遺族および朝日新聞社の協力を得て、「作文コンクール」を開催しています。

令和2年度は、引き続き「作文コンクール」を開催するとともに、活字で表現する面白さや楽しさを知ってもらうための講座を実施します。

3 事業概要

① 【新規】文章で表現する面白作文講座 (10千円)

現代人の活字離れが叫ばれる中、文章を書いて表現する面白さや楽しさを実感する講座を開催し、改めて飛騨市出身の偉大な文学者の存在を知ってもらうきっかけを作り、氏の功績を顕彰し続けます。

② 【継続】荒垣秀雄顕彰作文コンクール (170千円)

かつて、荒垣氏が「天声人語」を執筆していた頃と同じ800文字で綴る作文を全国に募集し、優秀な作品を表彰するとともに偉大な先達を顕彰し続けていきます。

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 3 文化振興費	
所 属	教育委員会事務局文化振興課 TEL0577-73-7496	予算書	P. 128

[拡充] 行きたくなる図書館づくり

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
431	一般財源	431	報償費	202
			需用費	157
			その他	72
(前年度予算 690)				

2 事業背景・目的

様々な情報メディアの発達や生活環境の変化などにより、活字（図書）離れが懸念されている中、市民の多様なニーズに対応し、魅力ある図書館とするため、蔵書の充実を図り、市民の生涯学習の拠点となる図書館を目指します。

図書館での魅力的なイベントを積極的に開催することで、まだ来館したことがない潜在的な利用者を掘り起し、図書館利用率の向上につなげます。

また、ソフト・ハード両面の充実を図り、図書館の利用向上につながる方策を実現し、更なる図書館の利用率向上に努めます。

3 事業概要

① 【新規】電子書籍の導入試験（30千円）

近年、タブレット等で本を読む電子書籍が少しずつ普及をはじめていることから、飛騨市図書館内に電子書籍用のタブレット2台を試験的に導入しニーズ等を調査するなど、今後の活用に向けた検証を行います。

② 【継続】図書館自主イベントの開催（401千円）

- ・ 図書館を気軽に来館してもらうため、様々なイベントを開催します。
- ・ 絵本作家講演会
- ・ 季節イベント（ハロウィン・バルーンアート・クリスマス）
- ・ 図書館定期イベント（おとなの時間、としょかん音楽会、おはなしかい in English）
- ・ 図書館企画講座（歴史講座、健康・文学講座など）及び関連コーナーの設置
- ・ 親子読み聞かせ会（ひよっこひろば、やんちゃっこタイム他）

(款) 10 教育費	(項) 4 社会教育費	(目) 6 図書館費	
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL0577-73-7496	予算書 P.130

拡充 地域文化継承活動の支援

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】	【主な使途】
1,500	一般財源	1,500 補助金

(前年度予算 1,115)

2 事業背景・目的

市では、文化芸術等団体による自主的な活動を支援し、市民が文化・芸術に触れる機会を増やし、市内の文化芸術の振興を図ってきました。そのような中、市内には、古来より地域に伝承されてきた伝統文化が現在まで大切に継承されており、これらは本市の文化力を支える大きな原動力になっていますが、活動団体によっては、会員減少などの活動資金不足により、活動経費や備品更新など、継承活動に支障が出ている現状にあります。

このことから、新たに地域固有の伝統芸能の継承を行う活動に対し支援をすることで、市民の郷土への誇りや愛着を深め、地域文化の伝承ならびに地域の文化力向上を図ります。

3 事業概要

○【拡充】飛騨市地域文化事業補助金 (1,500千円)

これまでの活動支援に加え、用具等の修理購入支援を新たに追加します。

③ 固有の民俗芸能の継承支援 (新規)

当該地域に古くから伝わる固有の民俗芸能 (獅子舞や民謡など) を継承する団体に対し、継承に必要となる用具の修理や購入にかかる費用の一部を支援します。

補助対象経費：用具の補修や更新

補助額：上限10万円 (補助率1/3以内)

④ 芸術・文化活動への支援

芸術・文化の振興と発展のため、市民等への芸術に触れる機会提供を目的として、芸術活動を行う団体に対し、活動費用の一部を支援します。

補助対象経費：イベント開催に要する経費

補助額：上限30万円 (補助率1/2以内)

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	3 文化振興費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P. 128

新規 飛騨市文化交流センター15周年記念祝賀イベントの開催

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
3,000	ふるさと創生基金	3,000	委託料	3,000

(前年度予算 0)

2 事業背景・目的

飛騨市文化交流センターは、これまで市内の文化振興の中心施設として、市民等に音楽イベントや舞台公演など、多様な文化コンテンツを提供し続けてきました。施設の中心であるスピリットガーデンホールは、旧古川町時代に世界的な作曲家の故武満 徹氏※により作曲された「Spirit Garden - 精霊の庭」にちなみ、これからの世代が「飛騨の伝統を学びながら新しい文化を育む場」として活用されていくという願いが込められて命名されたものです。

令和2年度が、同センターの開館15周年の節目を迎えることから、市民と共に祝賀記念イベントを開催し、市民の文化芸術拠点として今後の更なる活用を推進します。

※武満徹氏（1930-1996）は、現代音楽を切り拓いた音楽家として、世界的に高い評価を受けた作曲家。

3 事業概要

○ 飛騨市文化交流センター15周年記念祝賀イベント

開催予定：令和2年秋頃

- 内 容：① 東京フィルハーモニー交響楽団による、故武満徹氏が作詞作曲した「ファミリートゥリー」等の演奏をはじめとした公演。
 ② 故武満徹氏を偲び、ご親族や関係者によるトークショー。
 ③ 東京混声合唱団による武満 徹氏の曲目の合唱。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	7 文化施設費
所 属	教育委員会事務局文化振興課		TEL0577-73-7496	予算書	P.133

拡充 飛騨みやがわ考古民俗館の認知度向上

1 事業費 (単位：千円)	【財源内訳】		【主な使途】	
2,052	雑入	24	工事請負費	1,000
	一般財源	2,028	その他	1,052
(前年度予算 1,520)				

2 事業背景・目的

飛騨みやがわ考古民俗館は、収蔵する国指定の豪雪地域の積雪期用具や、県重要文化財の縄文時代を語る出土品など、将来に伝えるべき貴重な文化財として適切に保存管理し展示しています。しかしながら、当館の認知度が低いなどの理由により、近年入館者が著しく減少したことから、予め開館日を定めての縮小運営を行っています。これを改善するため、平成30年度より、外部民間団体と連携し、施設の活用方法を模索検討する取り組みを始めるとともに、全国の小規模博物館で構成された「小規模ミュージアムネットワーク」に加盟し相互交流を図ってきました。

令和2年度は、「小規模ミュージアムネットワーク」主催の全国大会を飛騨市に誘致し、当館の活用・周知を図るとともに、施設の不具合な箇所を修繕し、貴重な国指定収蔵品の適切な保存管理に努めます。

3 事業概要

① 【新規】小規模ミュージアムサミット全国大会の開催 (150千円)

全国から約100名の小規模博物館関係者や歴史ファンを招聘し、当館の周知を行うとともに、当館が抱える課題をディスカッションする場を設け、魅力ある施設になるよう具体的な解決方法を見出します。 【開催日 (予定) : 5月30日 (土) ~31日 (日)】

② 【継続】石棒クラブによるバックヤードツアー等の実施 (506千円)

これまでの外部民間団体との連携の中で集まった全国の石棒ファンで構成する「石棒クラブ」を中心に、市外での石棒の周知イベント開催や飛騨みやがわ考古民俗館のバックヤードツアーを実施します。また、石棒を紹介するSNSを運営し、全国に石棒の魅力を伝えます。

③ 【継続】施設の修繕 (1,396千円)

国指定文化財収蔵庫の除湿機を修繕し、適切な保存環境に整備します。

(款)	10 教育費	(項)	4 社会教育費	(目)	7 文化施設費
所 属	教育委員会事務局文化振興課	TEL	0577-73-7496	予算書	P.131